



○中南米地区日本人学校研究協議会に参加してまいりました。

10月7日(月)～9日(水)にかけて、アルゼンチン共和国ブエノスアイレス日本人学校で行われた、中南米地区日本人学校長研究協議会に参加してまいりました。この会は、著しい時代の変化とグローバル化の中であって、日本人学校における運営について研究協議を行い、日本人学校の教育水準の向上を目指すことが目的です。中南米地区にある14の日本人学校の校長と、日本からは文部科学省、外務省が参加して行われました。

文部科学省からは、来年度の予算の増額が確保でき、日本人学校の教育水準の向上に充てることができたこと。外務省からは、「世界が分からなくなっている中、日本の存在意義が大きくなっている。日本人のアイデンティティーへの誇りと世界に対する責任の自覚が求められる。インターナショナルな学校にするためには、ナショナルを大切にしなければならない。」等のお話がありました。

研究協議会では、各学校の校長から、日本人学校を取り巻く様々な問題点が出されました。特に顕著だったことは、児童生徒数の減少と施設の老朽化、それに治安の悪化でした。児童生徒数が10名を割ってしまい存続の危機にあることや、築80年を過ぎ改修が必要であるが、予算が足りない状況であること。また、麻薬組織が暗躍したり、難民が街中にあふれたりして治安がかなり悪化していることなどが報告されました。しかし、そのような状況の中でも、子どもたちは明るく元気に勉強していて、学校も様々に工夫し学習の効果を上げている様子が伝えられました。心配以上の勇氣と元氣をもらって帰ってくることができました。

お陰様でメキシコシティにある本校は、児童生徒数も比較的安定しており、施設も今年度改修することができました。治安についても、他の学校程は悪化しておりません。メキシココースといつでも交流できる環境であることも本当に幸運なことです。これらのことを認識し、この環境に甘えることなく、子どもたちの成長のため、より良い教育活動を展開していかなければならないと再認識しました。

○2019リセオ大運動会開催迫る。

第43回リセオ大運動会が3日(日曜日)にせまりました。17本の紅白のリセオの旗がカンチャ上空に舞い、雰囲気がいよいよ盛り上がってきました。予行練習では、1回目より2回目と真剣さが増し、いよいよ本番が楽しみです。日本コース4～6年生の子どもたちとメキシココース6年生による合同鼓笛隊が演奏する「サカテカス行進曲」による入場行進から運動会は始まります。最終種目は日本コースとメキシココース混成による選抜リレーです。

メキシコの現地の学校では、運動会のような行事はないと聞いております。リセオでは開院当時から日本の伝統的な運動会を開催してきました。今年度もその歴史を継続することができます。日本コースの子がメキシココースの子からバトンを受け、メキシココースの子にバトンを渡す選抜リレーに象徴されるように、この行事を通して、日墨友好のバトンが43年間渡し続けられることに大きな意味があると思っております。どうぞ保護者の皆様、当日を楽しみに、運動会を見に来てください。